

1. 特集 大震災一周年のハイチ

HAITI 2010年1月12日、ハイチ共和国の首都ポルトープランスをマグニチュード7.0の大地震が襲った。ハイチは今...私たちはハイチを忘れない。

◆ハイチアート展覧会～アートが命を繋ぐ～@憲政記念館

1月11日、12日の両日、憲政記念館にてハイチアート展覧会～アートが命を繋ぐ～を開催した。二日間の来場者数は約300名。絵画は(株)三河屋奥右衛門の石川泰久氏からご提供いただき、フォトジャーナリスト佐藤文則氏の写真展示も同時に行った。ヴィネアージュン・バティスト ハイチ共和国代理大使、日本ハイチ友好議員連盟会長の谷垣禎一衆議院議員やストップ結核パートナーシップ推進議員連盟副会長の大河原まさこ参議院議員をはじめとする多くの国会議員、外務省の方々にも足を運んでいただいた。また、ハイチに様々な形で関わっている団体や NGO からもご協力、ご参加をいただいた。大変な盛り上がりを見せ、ハイチ支援の継続をお互いに確認し合う参加者の様子は印象的であった。現在は、国連本部(ニューヨーク)におけるハイチ大地震二周年同展覧会開催に向けて準備を進めている。*詳細は別紙写真特集にてご覧ください。

◆ハイチ調査事業

2月9日～19日、外務省の開発協力事業の一環としてハイチ調査事業が行われ、日本リザルツ(RJ)から白須がハイチへ渡った。阪神・淡路大震災の犠牲者が6,434人だったのに対し、ハイチ大地震は22万人。とてつもない被害の大きさと、ハイチが抱えてきた歴史的な苦難、現代社会が抱えるあらゆる問題に直面しているこの国の現状を改めて考えさせられた10日間であったとの報告があった。2010年4月、NHKのクローズアップ現代の取材で須藤昭子シスターに同行し現地調査を行ってから10カ月。再びシグノーのサナトリウムを訪れ、ピンク色の小さな仮宿舎で笑顔いっぱいのシスターと再会。日本ラム協会からお預かりした寄付金(459,869円)と、リザルツからの寄付金(街頭募金、ハイチ絵画展、リザルツの一般寄付者からお預かりしたもの)第3回目分(198,024円)を、白須が須藤シスターにお渡しした。団員であったストップ結核パートナーシップ(STBJ)の森氏らとともに、3月16日に厚生労働省で記者会見を行い、3月末までに今回の報告書をまとめ外務省へ提出することとなっている。*詳細は次回号にてご報告予定しています。



*現地スタッフから説明を聞く森、角 両氏



*須藤シスターに寄付金を渡す白須事務局長



*崩壊したままの大聖堂を歩く佐藤氏

◆ハイチカフェ

3月1日、新宿のカフェハイチで「ハイチの復興と将来を考える」会合をもった。ハイチを支援する団体や1月に行われた絵画展にも参加した関係者などが集まり、各団体の支援状況や現地情勢について情報交換を行った。ハイチへ第一陣として入った山本太郎氏(長崎大学教授、元外務省国際協力局)、今回のハイチ調査ミッションに参加した森亨氏(STBJ 代表理事)、角泰人氏(STBJ)、白須が現地の最新情報を提供し、今後もこのような場をもっていくこととなった。また、当日飛び入りした特別ゲストに参加者全員が感動し声援を送った。

2. 活動報告

◆国際結核シンポジウム～世界から関西の結核を考える～開催

2011年1月15日、関西大学高槻ミューズホールにて国際結核シンポジウム(主催:STBJ、関西大学社会安全学部、協賛:RJ)が多くの後援を得て開催された。参加者は約300人で関西行政関係者、大学、病院、医師・看護師、保健師、大学院生、学生などであった。第一部、世界の結核では、クマレサン氏(WHO 神戸センター所長)、キャロル氏(ストップ結核パートナーシップ理事、前世界基金理事 / ザンビア)、プブレト博士(結核予防会フィリピン事務所副所長)、ポーラ博士(国際結核肺疾患連合(UNION)理事)の発表があり、第二部関西の結核では病院・保健所関係者による各県の現状・課題について発表があった。今後、高鳥毛敏雄教授(関西大学)をはじめ、熱心で協力的な関西の関係者の力を結集して、関西の結核対策や公衆衛生課題の解決にあたるとともに、世界の結核の現状・課題についても、より関心をもってもらい、世界に向けて行動を起こすことになる。



*参加者で埋まった会場の様子



*クマレサン氏(WHO 神戸センター所長)



*キャロル氏との再会 休憩時に記念撮影

◆航空券連帯税の全日空への申し入れ

1月18日にリザルツを含む連帯税を推進するNGOのグループが全日空の幹部と面会し、12月の第8回リーディンググループ総会およびその前日の国際NGO会合での決議内容を説明した。内容は、航空券連帯税の日本での即時実施、2011年の国際会議での通貨取引税を含む金融取引税のアジェンダ化であった。ANAからは、日本の航空業界の苦しい現状を踏まえると、どのような新規課税も受け入れられないとの前回(10月18日)の回答と同様であったが、航空利用者である市民の声が大切という点では合意した。全日空の方々には大変誠実にご対応いただいた。

昨年12月にまとめられた平成23年度税制改正大綱でも国際連帯税については触れられており、地球規模問題の財源確保のため航空券連帯税や通貨取引税について、論点整理を行いつつ真摯に検討を行う、とされている。

◆G20 財務大臣会合へ向けての申し入れ

2月16日、G20 財務大臣会合へ向けて、日本のNGOから11名がG20・8の今年の議長国フランスの大使館を訪問し、金融取引税の導入に向けて、フランスがリーダーシップをとることを要請した。大使館担当者からは、申し入れは伝える、フランスはアフリカや食料問題についても議題化すると反応があった。

◆国際連帯税での国連次長との会合 グローバル・ヘルス・フォーラム 2011

2月25日、(特活)日本医療政策機構、UNITAID、東京大学共催のグローバル・ヘルス・フォーラム 2011が東京で開催された。基調講演では、国連次長フィリップ・ドストブラジ氏が2015年のMDGs達成にむけて革新的資金メカニズムが必要であることを力説した。その後のパネル討論では、韓国政府代表からは、韓国航空券連帯税のレビューについて、GAVI(ワクチンと予防接種のための世界同盟)代表からは、国際金融ファシリティ(IFF)などの新資金メカニズムの必要性についての言及があった。これに先立ち、リザルツを含めた日本での連帯税を推進するグループはドストブラジ氏・フランス大使館館員と今後の日本国内でのアドボカシーの進め方について1時間にわたり議論を行い、しっかり協力していくことを確認した。



*会議終了後、ドストブラジ、津島氏と懇親する白須事務局長

◆長期スタディプログラム

1月3日～2月15日、長期スタディプログラム(外務省支援)の派遣員として三浦が渡米。研修のテーマはファンドレイジングやマネージメントに関するスキルアップと、ネットワークの構築である。ファウンデーションセンター(NY)にて、自分たちの活動をアピールするためのテクニックや優れたプロポーザルを書くスキルなどを享受された。また近年の経済危機の中でファンドをどう受けていくか、政治家との関係構築についても重要なポイントとして扱われていた。

その後は米国リザルツ(REF)(ワシントン DC)で研修。米国の市民活動について触れることができた。3M(Money、Members、Message)がうまくつながっている。最終的な意思決定者である国会議員への効果的なアプローチを行うため、会員との定期電話会議、支部単位での定期グループ会議、そこで行われるアドボカシー講習などが戦略的に行われていた。まさに組織運営の基盤であり、この部分を広げていくことの必要性を改めて感じた。得た経験を今後の活動に十分に生かしていきたい。最後に、外務省民間援助連携室、JANICの方々には的確なアドバイスをいただき、お礼を申し上げます。

*ブログもあわせてご覧ください。3月15日に、研修期間中の記録を綴った日記を発刊します。



*REF スタッフと



*MOSOTOS キャンペーンのバッジ。「More Of the Same Old Talk, Opinions, and Speeches」の略

◆台湾調査事業

1月26日～30日まで台湾にあるエイズ孤児院や病院を傘下に持つ NGO(ハーモニー・ホーム)をボランティア医師であるジョゼフ・デヤマ氏の仲介により、RJ から白須、インターンの大嶋 2 人で視察した。現地へ赴き、エイズ孤児や施設スタッフと寝食を共にし、ニコール・ヤン代表よりハーモニー・ホーム設立の経緯、今後の展望について伺いながら、中国・台湾を巡るエイズ諸問題を考察した。現在台湾における HIV/エイズの蔓延は中国本土よりも悪いと報告されている。中国は、昨年9月の NY での MDGs サミットでエイズ対策に力を入れていくと温家宝首相が宣言していることから、持続可能なエイズ草の根支援及びエイズ予防・教育を遂行していくために、世界基金などへの中国の意識喚起も今後高めていくべきだと視察を通して感じた。(インターン:大嶋) *当日の様子は別紙写真特集にてご覧ください。



*視察先での子ども達の様子

◆MDGs フォローアップ会合の説明会

2月14日、外務省地球規模課題総括課から、6月2、3日に東京の三田共用会議所で開催される MDGs フォローアップ会合の NGO 向け説明会が行われた。2015 年の達成に向けてどのように取り組むべきか、特に保健、教育について先進国・新興国・途上国・国際機関・市民社会・有識者・ビジネス・財団などを集め議論する。これにあわせ、RJ はミレニアム・プロミス・ジャパンと共同で貧困や結核などに焦点をあてたサイドイベントを計画している。また、当会において RJ からは国連ミレニアムプロジェクトのディレクターであるジェフリー・サックス氏の来日を提案した。



*このロゴは(特活)ほっとけない 世界のまじさが作成。

3. ニュース

◆経済協力開発機構(OECD)租税委員会の小委員会委員に日本リザルツから

財務省副財務官浅川雅嗣氏が OECD 租税委員会議長に今年6月から2年間就任することになった。これは日本人初の快挙であり、新聞報道もされた。同委員会内に「税と開発」タスクフォースが創設された。実質的な議論の場として4つの小委員会が設立され、RJの佐藤吉寿(会計・経理ディレクター)が、「国家建設と援助」委員会委員に選ばれた。日本の NGO が OECD の委員に任命されたのは日本で初めてである。4月12日～13日にパリの OECD 本部で開催される小委員会における氏の活躍に期待したい。

◆パートナー / インターン 石塚 彩 ~4月から職員になります!~

私は、結核や医療システムに焦点を当てた国際保健に興味を持ち、大学院在学中、日本の社会的・経済的弱者の結核問題を研究してきました。1月下旬、卒論を書き終えて、一段落したときに参加した結核シンポジウム(関西大学)をきっかけにRJの皆様にお会いしました。エネルギーで活発なRJの皆さん、また、日本と世界の結核のための活動に惹かれ、少しでも貢献したいと思い、2月よりインターンとしてお手伝いさせていただいています。今は、ハイチの活動を担当しており、結核や保健の面だけではなく、生活、教育、安全確保、ガバナンスなど様々な面で一つの国を見つめることを学んでいます。4月からは正職員としてお世話になります。よろしくお願いいたします。



*石塚 彩さん

◆WHO 結核レポート(日本語版)を発刊

昨年10月に発行されたストップ結核パートナーシップ発行”The Global Plan TO STOP TB 2011-2015”の日本語版を作成した。3月末に発刊予定。レポートには結核に関する最新のインパクトが報告されている。毎年の新規患者数は900万人とされ、HIV/AIDSとの二重感染者やMDR-TBの深刻さにも言及している。一方で患者数は2004年をピークに減少傾向にあるとされ、世界の結核対策に一定の評価も行っている。*RJのHPに掲載予定です。

◆マイクロクレジットサミットキャンペーンレポート2011 発表

3月7日、REF内のマイクロクレジットサミットキャンペーン(MCC)チームが2011年の報告書を発表した。キャンペーン設立当時(1997年)の少額融資対象者数は760万人であったが、本報告書では1億2800万人以上とあり、当初の16倍になった。少額融資対象者全体の81パーセント(1億人)以上は女性である。1家族あたり平均5人と仮定すると、約6億4100万人、つまりEUとロシアの人口を合わせたよりも多くの人々にまで恩恵が及んでいることになる。次回グローバルマイクロクレジットサミットは2011年11月14日~17日にスペインで開催される。

*詳細はRJのHPにてご覧ください。日本語訳にとりかかっています。

◆ホームページをリニューアル

RJのホームページをリニューアルしました(<http://www.resultsjp.org>)。写真掲載も充実させ、活動状況をより細かく迅速に詳しくお伝えしていきます。是非ご覧ください。ブログ(<http://resultsjp.exblog.jp/>)も常時更新中。コメントお待ちしております!!

4. イベント/国際会議情報 ~ぜひご参加ください!~

<イベント>

- ハイチ募金
3月11日(金) 12:00~13:00 @三崎町交差点
※4月12日(火)、5月12日(木)、6月10日(金)も行います。
- 第62回結核予防全国大会
(主催:公益財団法人結核予防会 他)
3月23日(水)、24日(木) @ホテルハマツ、福島県
- チャリティー・ウォーク for MDGs
(主催:MDGs2015 キャンペーン)
4月24日(日) 10:00~ @JICA 地球ひろば~代々木公園

<国際会議 他>

- 3月14日~15日 G8 外相会議@カンヌ
- 3月22日 世界水の日
- 3月24日 世界結核デー
- 3月25日 日本リザルツ 理事会 / 2010年度通常総会
- 5月25日~26日 G8 首脳会議@ドーヴィル
- 6月2日~3日 MDGs フォローアップ会議@東京
- 6月13日 GAVI 拠出会合@ロンドン
- 6月19日~23日 リザルツ国際会議@ワシントン DC

リザルツは、政治家やメディアと協力し、貧困に苦しむ人々の声を政策に反映させ、「貧困と飢餓のない世界」を創ろうと活動している国際市民グループ(NGO)です。日本の他、アメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダ、メキシコ、フランス等、各国で活動しています。日本リザルツは1989年の発足以来、ODA(政府開発援助)政策等において、貧困削減への費用対効果が高く、且つ顔の見える援助政策について政府に提言しています。リザルツのユニークな活動方法は、草の根の市民から、米国国務長官のヒラリー・クリントン氏、経済学者のジェフリー・サックス氏、元南アフリカ大統領のネルソン・マンデラ氏等世界の著名人達に至るまで、幅広い層の支持を得ています。マイクロクレジットでノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行のムハマド・ユヌス氏は、日本リザルツの名誉顧問です。

~ご寄付/ご入会をお願いしています。~

日本リザルツの活動は、皆さまからのご寄付によって支えられています。独立した立場で自由な政策提言を行うためには、幅広い民間(個人・企業)からのご支援が必要となります。皆さまからのご協力を心からお願いします。 ゆうちょ銀行 口座番号:00170-9-581459 加入者:日本リザルツ

2011年1月11、12日 @ 憲政記念館
 「大地震被災一周年 ハイチアート展覧会 ～アートが命を繋ぐ～」



1月11日 12:00より開場



*設営も終わり、いよいよ開場間近!



*ハイチ絵画とドラム缶の蓋で作った工芸品。



*おかざき世界子ども美術博物館館長長谷川栄氏による最終点検。



*ハイチ支援を行うNPO/NGOのコーナー



*ハイチでの「手を洗おう!」の絵本



*日本ラム協会提供によるラム酒で乾杯の準備。



*日本リザルツ理事長 浅野茂隆による開会の挨拶



*ハイチ共和国代理大使バティスト氏



*日本ハイチ友好議連会長 谷垣禎一衆議院議員



*ストップ結核パートナーシップ(STB)推進議連副会長 大河原雅子参議院議員



*外務省中南米局中米カリブ課長 本清耕造氏



*逢沢一郎衆議院議員



*外務省大臣官房 官房長 木寺昌人氏



*初めてハイチアートに接する方も多かったです。



*アートを鑑賞する木寺官房長と取材クルー



*絵を貸し出してくださった首藤信彦衆議院議員と
(株)三河屋奥右衛門の石川泰久氏とリザルツスタッフ

1月12日 9:30より開催



*STB 推進議連副会長、古屋範子衆議院議員と
事務局長 浜田昌良参議院議員



*たくさんの小学生が興味深く鑑賞してくれました。



*小学生にハイチの絵本の読み聞かせをする
ハイチの友の会代表 小澤幸子氏



*日本ハイチ友好議連 事務局長
羽田雄一郎参議院議員



*姫井由美子参議院議員ととちぎ蔵の街美術館
館長松田重昭氏のトーク



*須藤シスターの本を手にする姫井由美子参議院
議員とリザルツ事務局長白須紀子。



*12日はいつもの場所で街頭募金もがんばりました。



*須藤シスターからいただいたハイチ絵画も展示。

開催経緯

2010年1月12日 ハイチ共和国の首都ポルトープランスにてマグニチュード7.0の地震が発生。首都は崩壊し、一瞬にして22万人の死者と300万人の被災者をだした。瓦礫の中からの救出は遅々として進まず、衛生状態は悪化し感染症の蔓延が始まっていた。このニュースにより、日本リザルツは翌月2月から毎月12日に水道橋駅近くの交差点にてハイチ支援を目的とする街頭募金を開始した。

2010年4月19日～28日 ハイチで30年以上結核患者のために活動を続けていらっしやる須藤昭子シスターとのご縁もあり、シスターのハイチへの一時帰国へ同行した。震災後3か月たったとはいえ街は瓦礫の山で、多くの人々は拾ってきた木材と布で作ったテントに肩を寄せ合って暮らしていた。西半球で最大の結核有病率であるハイチの結核医療の拠点 GHESKIO(ゲスキオ)、その関連施設等を視察した。エイズとの二重感染、多剤耐性結核の患者も崩壊した病院の敷地内のテントに收容されていた。かつて日本政府の支援により建設された国立結核療養所(須藤シスターの医療拠点)も瓦礫と化し、患者は感染が危惧されるまま家に帰るかテントでの生活となっていた。震災前よりシスターはハイチの人々の自立支援を目指し、農業支援を目的としたGEDDH(ジェッド)を主催し成果をあげていらした。

2010年5月 ハイチ支援に関する要望書を当時の外務大臣岡田克也氏に須藤シスターと共に提出した。シスターからの要望は、シグノーの国立結核療養所の再興と農業技術学校の建設。リザルツからは、感染症対策としてシグノーの国立結核療養所の再興と JICA 技術協力プロジェクトの継続、持続的貧困対策として農業技術学校建設の支援、日本が得意とする耐震対策支援、上下水道計画支援、NGO プロジェクト形成支援を要望した。

2010年7月 リザルツの街頭募金のおり、(株)三河屋奥右衛門の石川泰久氏が声をかけてくださった。石川氏は20年前にハイチ絵画の芸術性に魅了され130点ほどのハイチ絵画を所有。石川氏はハイチ支援を目的とした展覧会をされており、収益を寄付としてどこに送るのがいいの相談を受けた。リザルツは須藤シスターをご紹介し、彼女を通じハイチ結核患者のために寄付が使われる道ができた。

2010年9月 石川氏とリザルツの間で、ハイチアート展覧会開催の企画が持ち上がった。石川氏所有のハイチの絵画と1988年からハイチを撮り続けている写真家佐藤文則氏の作品を中心に、ハイチの状況を知ってもらい継続的な支援を喚起すること等、話し合われた。

2011年1月11、12日 「大地震被災一周年 ハイチアート展覧会 ～アートが命を繋ぐ～」憲政記念館にて開催。

2011年2月9日～19日 ハイチ結核調査視察の予定 - 森亨(STBパートナーシップ日本代表理事)、白須紀子(日本リザルツ事務局長)、佐藤文則(写真家)等による調査。
*** 皆様からお預かりしたご寄附は、須藤シスターに直接お渡しいたします。 ***

2011年 年末 ニューヨークの国連本部ロビーにてハイチアート展覧会～アートが命を繋ぐ～を開催予定。

ハイチアート展覧会 ご報告

後援いただいた団体:ハイチ大使館、外務省、厚生労働省、内閣府政策統括官(防災担当)、国際労働機関(ILO)駐日事務所、日本赤十字社、日本ハイチ友好議員連盟、ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟、(特活)国際協力 NGO センター、動く→動かす、市民キャビネット、(特活)NPO事業サポートセンター、(特活)世界の医療団、(特活)アムダ、(特活)ストップ結核パートナーシップ日本、国際連帯税を推進する市民の会、リザルツ教育基金

ご協力いただいた団体:ハイチの会セスラーハイチコーヒーと軽食のご提供、日本ラム協会ーラム酒のご提供

活動の資料とパンフレットをご提供いただいたNPO/NGO:ハイチ友の会、ハイチの会セスラ、ハイチの会、(特活)難民を助ける会、(特活)ICA 文化事業、(特活)ジェン、公益財団法人ケア・インターナショナルジャパン、(特活)アムダ、(特活)メドウサン・デュ・モンドジャパン(世界の医療団)

1月11日、オープニングセレモニーでご挨拶いただいた方々:ウィネアー・ジャン・パティストハイチ共和国代理大使、日本ハイチ友好議員連盟会長 谷垣禎一衆議院議員、ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟副会長 大河原雅子参議院議員、外務省中南米局中米カリブ課長 本清耕造氏、逢沢一郎衆議院議員、外務省大臣官房 官房長 木寺昌人氏、佐野市副市長 石田正巳氏、日本リザルツ 理事長 浅野茂隆

1月12日、ご挨拶いただいた方々:日本ハイチ友好議員連盟事務局長 羽田雄一郎参議院議員、STB 推進議員連盟副会長 古屋範子衆議院議員、STB 推進議員連盟事務局長 浜田昌良参議院議員、姫井由美子参議院議員

入場者数: 約300人

2011年1月26日～30日 「台湾エイズ孤児院を視察して」
白須事務局長/大嶋 (インターン)



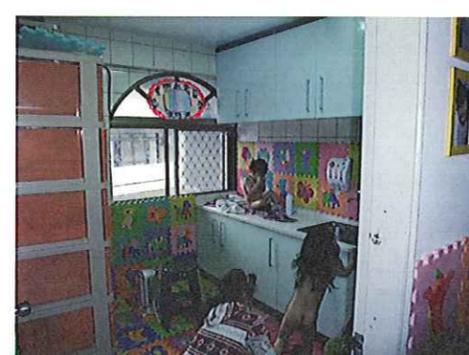
*ハーモニーホーム台北



*哺乳ビンで溢れかえった流し台



*子ども達の洗濯物を片付けるスタッフ



*子ども達をお風呂に入れている様子



*子ども達と触れ合う白須



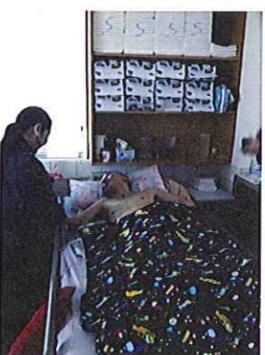
*施設内はカラフルなマットで覆われていた



*移動時の車中はすし詰め状態



*ニコール代表 (中央) とみんなで外出@国父記念館公園



*高尾のエイズホスピス
病床数は100を超える



*今回の視察を仲介してくれた Dr. ジョゼフ・デヤマ



*ウェンディさん (実業家) が無料でヨガ教室を開放



*ボランティアとして関わっている、女優のアリエル・リンさんと大嶋